

坂口琢紀 学位論文審査要旨

主 査 汐 田 剛 史
副主査 植 木 賢
同 磯 本 一

主論文

Next generation laser-based photodynamic endoscopic diagnosis using
5-aminolevulinic acid for early gastric adenocarcinoma and gastric adenoma
(早期胃腫瘍・腺腫に対する5-アミノレブリン酸を用いた次世代の光線力学内視鏡診断)
(著者：坂口琢紀、木下英人、池淵雄一郎、神田努、山下太郎、菓裕貴、藤井政至、
枝野未来、長谷川隆、斧山巧、吉田亮、河口剛一郎、八島一夫、磯本一)
令和2年 Ann Gastroentetol. 33巻 257項～264項

参考論文

1. Identification of a novel deactivating small-molecule compound for fibrogenic
hepatic stellate cells
(線維形成性肝星細胞を抑制する新規低分子化合物の同定)
(著者：坂口琢紀、河野洋平、板場則子、森本稔、磯本一、汐田剛史)
令和2年 Yonago Acta Med. 63巻 79頁～87頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、5-アミノレブリン酸を用いた、第2世代内視鏡システム試作機（Sie-P2システム）による光線力学的内視鏡診断の有用性について検討したものである。Sie-P2システムでは、写真が暗くなるなどの第1世代内視鏡システムの欠点が改善され、全症例で光線力学的診断（LPDED）が有用であり、さらに新規2病変を見出し、高い検出感度を認めた。また安全性においては、肝機能異常を2症例、白血球増加を6症例で認めたが、経過観察のみで軽快し、重大な副作用を認めなかった。本論文の内容は、胃癌の光線力学的診断の臨床応用に資するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。